

2020年 6月21日礼拝式次第

日本基督教団半田教会  
横山良樹牧師

**招詞** : ローマの信徒への手紙 5章5節

希望はわたしたちをあざむくことはありません。  
わたしたちに与えられた聖霊によって、  
神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

**讚美歌** : 21-206番（七日の旅路）より1番のみ

七日の旅路、守られ歩み 今日またここに 集まり祈る  
み恵みの日よ、安息の日よ

**詩篇交読** 126篇

**祈 禱**

すべてのものを造り、歴史を支配される全能の父なる神さま。  
教会の暦ではペンテコステをむかえて、聖霊降臨節となづけられた日々を、  
わたしたちは歩ませていただいています。わたしたちの目に映る現実には、新  
型コロナウィルス感染症に揺れながらも、懸命に新しい日常に適応しようと  
するわたしたち社会であり、国と国とがこの世界史的な状況によって軋み、  
手を取り合うよりは、互いの手を払いのけて、みずからのうちに閉じこもろ  
うとする罪の姿であります。分かち与えるよりも、相手から奪うことをまず  
考えてしまう骨の髄まで経済原理に支配される人間の姿、マモンの神に支配  
される世界の姿をみています。主よ、どうか憐れんでください。そして、あ  
なたの御名を冠する教会を清めてください。どうか、今日、あなたが世界の  
教会で語られる御言葉を通して、そこに集う者たちの心に触れて下さり、何  
があなたの御心であり、キリストの願いであったかに立ち帰らせてください。  
御言葉に聴き、生きることのない社会には正義にもとづく平和はありません。  
7日に一日与えられるこの聖日礼拝のときが、悔い改めの時として用いられ、  
聖霊の風に押し出されて、新しい別の道へと送り出される機会とされますよ  
うに願います。そのために御言葉を取り次ぐ者、奏樂をする者、祈る者、賛  
美する者たちを整え、御前にささげる礼拝が、あなたの喜びたもう捧げもの

となるように導いてください。この祈り、主の御名によって祈ります。

アーメン

**聖書朗読** : テサロニケの信徒への手紙 2 章 5～12 節

あなたがたが知っている通り、わたしたちは相手にへつらったり、口実をもうけてかすめ取ったりはしませんでした。そのことについては、神が証してくださいます。また、あなたがたからもほかの人たちからも、人間の誉れを求めませんでした。わたしたちはキリストの使徒としての権威を主張することが出来たのです。しかし、あなたがたの間で幼子のようにになりました。ちょうど母親がその子供を大事に育てるように。わたしたちはあなたがたをいとおしく思っていたので、神の福音を伝えるばかりでなく、自分の命さえ喜んで与えたいと願ったほどです。あなたがたはわたしたちにとって愛する者となったからです。兄弟たち、わたしたちの労苦と骨折りを覚えているでしょう。わたしたちは誰にも負担をかけまいとして、昼も夜も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えたのでした。あなたがた信者に対して、わたしたちがどれほど敬虔に、正しく、非難されることのないようにふるまったか、あなたがたが証しし、神も証してくださいます。あなたがたが知っている通り、わたしたちは父親がその子供に対するように、あなたがた一人一人に呼びかけて、神の御心にそって歩むように励まし、慰め、強く勧めたのでした。ご自身の国と栄光にあずからせようと、神はあなたがたを招いておられます。

**讃美歌** : 21-201 番「天使の言葉も」(1 番)

天使のことばも、知恵のことばも  
山をも動かす 信仰さえも  
愛がなければ

## 説教： 「愛による招き」

今朝、わたしたちに与えられている個所は、もしかしたら、すーっと読み終えてしまうところかもしれません。手紙全体のなかでこの個所が持っている役割が、これからパウロが宣べようとする勧めや励ましを、彼らがきちんと受け留めてくれるように促すための互いの確認、パウロにとってもテサロニケの人々にとってもお互いの存在がどのようなものであるかを確認して、さらに大事な話へと進もうとする共通の土台作りにあたる個所だからです。ここでパウロが手紙の受け取り手であるテサロニケの人々に思い起こさせようとしているのは初めの出会いです。それは彼らが新しく得たキリスト者としての身分、イエスさまをキリストとして受け入れたことで与えられた神の子としての自分のルーツをたどることに近いかもしれません。言うならば初めの恵みに立ち帰ることです。先週の週報に、伊藤トシ江さんが、ご自身がティーンエイジャーだったときに出会ったスイス人の宣教師のことを話された感話を載せました。自分がどのように彼らと出会い、時間をともにし、福音のために共に働いて救いに与ったかが明らかにされています。ご本人もテサロニケの信徒への手紙の説教を聴いて、当時のことを思い出したと語られましたから、宣教師との出会いによってキリストの福音に触れた方々、第二次世界大戦後のミッションボードの働きでキリスト者になられた方々は、これらの個所におおいに頷かれるところがあるかもしれません。お名前を申し上げませんが、そういう宣教師との出会い、天幕伝道で讃美歌をもらったり、宣教師のひらいた幼稚園で祈りを覚えたり、キリスト教主義の学校での宣教師との良い出会いの経験を持っておられる方々もおられます。そうした戦後の日本にふたたび伝道がなされた時期に信仰を持たれた方々が、この教会にも大勢おられます。そうかと思えば、パウロが、このテサロニケ伝道でも大活躍した弟子であり、同伴者であった信仰の子テモテについて、あなたの純真な信仰はまずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、いまはあなたにも宿っていますと述べている手紙もありますように、家族から信仰を受け継ぐこともあります。クリスチャンホームと呼ばれるようなケースですね。いずれが良い悪いの話ではありません。神さまは様々な方法を用いて、わたしたちをご自身の愛のうちに招かれるからです。キリスト・イエスのわたしたちへの愛に出会わせることによって、そうしてくださるのです。それがパウロや、シラスや、テモテのような伝道者の献身を通してであるか、それとも家族の献身を通してであるかは分かりませんが、相手のために思い、

祈り、尽くし、みずからを分け与える行いを通して、信仰の種が蒔かれていくことはいずれも共通しています。

今日の聖書箇所から、わたしが導かれる思いは、宣べ伝える者の献身がなかったら、キリスト者は誕生しないということです。またそこで執り成してくださる神さまの働きがなかったら、キリスト者が生まれることはないということです。具体的には聖霊の働きがなかったらということです。今年の聖霊降臨節（ペンテコステ）は5月31日で、そこから教会暦は聖霊降臨節に改まりました。神さまとイエスさまから送られた神の霊のもとに置かれている日々ということです。

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また地の果てに至るまで、わたしの証人となる」というイエスさまの約束の言葉が使徒言行録に記されています。これが、わたしたちが読んだテサロニケの人々の上に起きたことです。パウロがイエス・キリストの証人として、彼らに福音を宣べ伝えた結果、彼らはそれを受け入れて洗礼を受け、キリスト者になったのです。使徒言行録によりますと、テサロニケでの伝道は次のようでした。

「パウロとシラスは～テサロニケに着いた。ここにはユダヤ人の会堂があった。パウロはいつものように、ユダヤ人の集まっているところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合い、『メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた』と、また『このメシアはわたしが伝えているイエスである』と説明し、論証した。それで、彼らのうちのある者は信じて、パウロとシラスに従った。神をあがめる多くのギリシア人や、かなりの数のおもだった婦人たちも同じように従った。」とあります。

使徒言行録は、口語訳聖書では使徒行伝と呼ばれており、それはまた聖霊行伝とも呼ばれました。聖霊が働いてパウロを始め、人々を導き、宣べ伝える者、キリストの証人として用い、福音の訪れを告げていったからです。使徒言行録の記述が少し客観的に記された伝道の記録だとすると、テサロニケの信徒への手紙のほうは、宣べ伝えた側のパウロたちの心意気と言いましょいか、内面の想いを明らかにしています。わたしたちがどんな気持ちで、どんな態度で、あなたがたに福音を伝えたか、あなたたちも覚えているでしょう。それについては神も証人となってくださいます、とパウロは語り、福音と出会った初めの恵みを分かち合います。こういうところが伝道者の感謝と喜びがあふれている手紙だと思えますし、愛の手紙だなあと思わされる箇所です。

わたしは在宅で仕事をする事が多いので、教会にかかってくる多くの電話の対応をします。そのなかでいわゆるセールストークというのでしょうか、電力が自由化されましたとか、電話料金の値段を比較してかけかえませんかとか、インターネット回線のなにやらとか、事務機器のリースの比較であるとか、うちの方がお得ですといった電話がよくかかってくる。さいわい教会にはそちらの方面に詳しい方がいますので聴くに値する話であればそちらに振って対応してもらいますが、やはり、セールスはセールスで、オレオレ詐欺ではないですが、うまい話には簡単に乗れないという身構えがどうしても経験的に身につけています。むこうも、こちらに提供できる貴重な情報を持っています、と言って売り込んでくるわけですが、申し訳ないですが、それは向こうは商売です。しかし、福音伝道はそうではない。手弁当で、みずからの利益を求めず、むしろ、相手に自分を分かち与える。それはキリスト・イエスがまさにそのように生きて下さったから、愛して下さったからにほかなりません。わたしたちは、この救い主から命の言葉、永遠のいのちに至る福音を手渡されています。それをどうやって相手に受け取ってもらえるでしょうか、なにしろ見えないものです。わたしの持っているこの素晴らしい花瓶を買いませんかとか、裏の土地はいりませんかというわけにはいきません。神の国という目に見えず、道案内も簡単には出来ないものをどうやって与えることができるか。報いを求めないで与える姿勢、自分を分かち与える姿勢が伝道の入り口であったことをパウロは明らかにしています。5節以下を読みますと、相手にへつらわない、また口実を設けてかすめ取ったりしないといひます。お追従をいって、相手のふところに取り入り、飯のタネにしたいのではない。また自分たちの名誉を求めたりもしないといひます。自分たちが託されているものを考えれば、そうすることが出来たにも関わらず、そうはしなかったといひのです。ここには当時の地中海世界、ギリシア人の世界では知恵を売り物にする教師たちがたくさんいたことが前提となっています。キリストの福音も最初、ギリシアの世界ではそういう受け止められ方をしていました。あまたある知恵の一つであり、自分たちに利益を与えてくれるような何かであると、しかし、それはただの知識の言葉ではなく、力と、聖霊と、強い確信によって、イエスがメシアであるといひ神の真実を受け入れる者を新しくする生ける神の業でした。それを与えるために、パウロたちは7節では、子どもを大切に育てる母親のように、福音を伝えるばかりではなく、自分の命すら喜んで与えたいと願った。それはあなたがたがわたしたちにとって愛する存在になったからだ、と、語っています。聖霊によって主にある兄

弟姉妹の交わりが培われていることが伺えます。そして、同時に 11 節では、今度は父親のように、あなたがた一人一人に呼びかけて、神の御心に沿って歩むように励まし、慰め、強く勧めたと強力な指導力を発揮したことも記しています。神さまが、ご自身の恵みのご支配と栄光に与らせようとの招きに与って、信仰の門をくぐった者たちが、横道にそれたり、座り込んで動かなくなってしまうないように、日々の生活が、主とともにあって形作られていくように、パウロたちが熱心に、父親のように指導したことを思い起こさせています。そして、この共通の土台を確認したうえで、パウロは、テサロニケの信徒たちに、このあと具体的なアドバイスを与えていくのです。

ここにはわたしたちと同じように、御言葉に聴きながら、人格と、人生と、共に生きる群れである教会を整えていく初代の信徒たちの姿が記されています。福音は人から人へと手渡されてゆきます。それぞれがどのようにしてキリストと出会い、信仰に導かれたか、そこにどのような神さまの愛の招きがあったか、今朝の御言葉の取り次ぎが、ここにおられるお一人お一人が初めの恵みに立ち返る機会、パウロのように神に感謝をささげる機会となりますように。祈りを合わせます。

お祈りいたします。

神さま、感謝をし、御名を賛美いたします。あなたは尊い宝をわたしたちに与えてくださいました。聖霊の働きによって、御言葉をわたしの心に刻み、わたしの手を取り、信仰へと導いてくださいました。そこにはいつもあなたが遣わした伝道者や、信仰の先達、教会の兄弟姉妹であったり、あるいは家族の祈りと献身があったことを思い起こします。ひとりひとりに大切な出会いの体験、初めの恵みが据えられています。その恵みの体験を分かち合い、励ましあって、あなたが、わたしたちを招いて下さったキリストの愛のうちに生きることが得させてください。わかちあい、ゆずりあい、まなびあいに、共に生きて、主の福音にあって生きる喜びを証する者とさせてください。この祈り、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

**讚美歌 21-403** 「聞けよ、愛と真理の」(2番)

仰げ、あがないの主を、世のため苦しみ  
永遠のいのち、与えたイエスを

与えたイエスを  
やがて時は来たる 平和の光の  
くまなく世をてらす あしたは来たる

献 金

報 告

添付の週報をご覧ください

祈 禱

主の御名が崇められるように。コロナウィルス感染症対策  
下で、医療・介護・福祉に従事する方たちのために、とも  
に礼拝をささげる日が与えられるように。

主の祈り

天にまします我らの父よ  
ねがわくば御名をあげさせたまえ  
御国を来たらせたまえ  
御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ  
我らに罪を犯す者を 我らがゆるすごとく  
我らの罪をも ゆるしたまえ  
我らを試みにあわせず 悪より救い出したまえ  
国と力と栄とは 限りなく汝のものなればなり

アーメン

祝 禱

主イエス・キリストの恵みと、  
父なる神の愛と  
聖霊との親しき御交わりが  
主の恵みのご支配を信じてこの世を生き抜く  
あなたがた一同の上に、とこしえにあるように。

アーメン！